●庄原市ふるさと大使
●庄原市ジビエ大使
西田（にしだ）　篤史（あつし）さんを偲んで

行政管理課広報統計係☎0824-73-1159

庄原市ふるさと大使で、庄原市ジビエ大使の西田篤史さんが、11月3日にご逝去されました。

西田さんは、これまで庄原よいとこ祭の司会をはじめ、本市のイベントに多数出席し、本市の魅力や特産品を広く発信。「ふるさと 庄原」の発展に大きく貢献されました。

今回は西田さんを偲び、これまでの本市との関りについて紹介します。

西田さんのプロフィール

昭和31年7月8日生まれ。「あっちゃん」の愛称で親しまれた広島密着型ローカルタレント。

中学2年生から高校卒業までの5年間を父方の実家があった本市で過ごす。その後進学し、広島修道大学3年生の時にRCCラジオに初出演。

卒業後は広島を中心にフリーで活動された。

庄原市ふるさと大使に任命

市は平成26年7月、本市の自然環境や観光資源などを広く宣伝し、知名度とイメージの向上を図るため、当時から庄原出身でテレビやラジオなどで活躍していた西田さんを、庄原市ふるさと大使に任命しました。

就任時、西田さんは「庄原には、自然や食など良いところがたくさんある。これから大使として、堂々と庄原の魅力を発信していきたい」と話し、以降本市の魅力を県内外に広く発信しました。

庄原市ジビエ大使として活躍

また令和4年7月には、イノシシ肉（ジビエ）の知名度とイメージの向上を図るため、庄原市ジビエ大使に任命しました。

庄原市ふるさと大使・庄原市ジビエ大使として活躍

年	内容
平成26年～現在まで	市の観光パンフレット「しょうばら旅ノート」「SHOBARA ぐるたび（現：ぐるっとSHOBARA）」などにふるさと大使としてインタビュー記事などを掲載
平成26年12月	テレビ情報番組「ひろしま満点ママ」に出演し、番組内で庄原市の特産品を PR
平成27年４月	テレビ情報番組「J ステーション」に出演し、庄原市ふるさと納税について PR
平成27年４月～平成28年３月	広島 HOME テレビ制作の庄原市 PR 番組に出演
平成27年８月	平成 27 年度庄原市成人式で記念講演
平成27年10月	庄原市市制 10 周年記念式典へゲストとして出席
平成27年12月	広報しょうばら新春企画で木山市長と対談
平成28年７月～平成29年２月	庄原いちばん動画 CM コンテスト開催。審査委員長に就任
平成29年12月	因島ウォーキング大会で、庄原市ふるさと大使としてゲスト出演し、庄原市を PR
平成31年３月	金藤理絵さんの「スポーツ大使」任命式でミニトークショー
令和元年５月	ふるさと塾 in 高野　田植え体験にゲスト参加
令和２年11月	JR 備後庄原駅前ロータリー供用開始セレモニーでトークショー
令和４年７月	お試しオフィス「吾妻ロッジ 36」開所式に出席庄原市ジビエ大使に任命
令和５年３月	庄原ファンクラブ会員募集イベントに出席木山市長とトークセッション
令和５年５月	庄原市民会館リニューアルオープン記念フェスティバルで司会
令和５年８月	帝釈峡ライトアップオープニングイベントで司会
令和５年８月	ヒバゴン郷どえりゃあ祭 / 西城ふるさと祭りで、木山市長とトークショー
令和５年10月	口和モーモー祭で木山市長とトークセッション
令和５年10月	庄原駅前フェスタで司会
令和６年３月	帝釈峡アウトドアフェスティバルで司会

平成27年度庄原市成人式（平成27年８月）

金藤さんのスポーツ大使任命式でトーク（平成31年３月）

庄原市民会館リニューアルオープン記念（令和５年５月）

帝釈峡アウトドアフェスティバル（令和６年３月）

広報しょうばら　対談エピソード

市制施行10周年の年にあたる平成27年1月号で、西田さんは木山耕三市長と新春対談を行っています。

対談の中で西田さんは「高野の道の駅をはじめ、東城では帝釈峡、庄原であれば上野池、こうした色んなものが年月をかけて認知され、まとまってきたと感じている」と話し、大使就任前から、本市のことを応援し、気に掛けていたと、当時の記録に残っています。

西田さんは、庄原市ふるさと大使・庄原市ジビエ大使としての活動はもちろんのこと、数多くのメディアやイベントで本市をPRする姿に、庄原愛が溢れていました。

最後に

西田さんは、イベント・行事のたびに「庄原市のためなら、僕はなんでもしますからね。いつでも言ってください」と仰っていただき、その大きな優しさと郷土を思う心に、いつも感心させられていました。

西田さんの活躍は、本市の発展に大きく寄与しています。

これまでの西田さんのご厚情に深い感謝を述べるとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

銃剣道競技（少年男子団体）が初の栄冠を獲得！
SAGA2024第78回国民スポーツ大会で優勝

行政管理課広報統計係☎0824-73-1159

10月12日～13日、佐賀県大町町で「SAGA2024第78回国民スポーツ大会 銃剣道競技会」が開催され、少年男子団体の部で、広島県代表（小奴可剣友会）が、全国制覇を成し遂げました。

少年男子団体戦では、市内の高校生3人が出場。3人3本勝負で勝敗を競い、決勝で高知県代表を破り、見事優勝を決めました。

【大会結果】

1回戦	広島県	3―0	千葉県
2回戦	広島県	3―0	長崎県
準決勝	広島県	2―1	佐賀県
決勝	広島県	2―1	高知県

銃剣道とは

フランス式銃剣術に、槍術の技法を取り入れた「日本式銃剣術」を起源とする、現代武道の一つです。

木銃と呼ばれる長い模擬銃を使い、左手・左足を前にして構え、相手の左胸や喉を突きます。

また、銃剣道の技はすべて突き技で、相手の木銃を打ち払う以外は、相手を直接打つ技はありません。

服装

銃剣道専用の胴衣に、剣道と同じはかまを着用します。

銃剣道衣は、剣道の稽古着や柔道衣に比べ、袖が長く、細くなっているのが特徴です。お互いに相手を突く武道のため、相手の木銃が袖に入らないように細く、長くなっています。

木銃

樫の木で作られ、中学生以上は、長さ166センチ、重さ1100グラム以上のものを使うように決められています。

木銃の先には「タンポ」と呼ばれるゴムが付いていて、突き技の衝撃を和らげる作りになっています。

銃剣道用具

剣道の防具と同じような「面」「胴」「垂れ」「小手（左手のみ）」に、「肩」「裏布団」「指袋（右手のみ）」を着けます。

肩・裏布団は、相手の突きによる怪我を防止するため、衝撃を和らげるために着けます。

試合

10メートル四方の正方形のコートで行います。早く・正確に・正しい姿勢で相手よりも先に有効突き部位である左胸や喉を突いて、勝敗を競います。

制限時間内に、2本先取した選手が勝利となります。

制限時間を経過した場合、1本を先取している選手が勝利となり、お互いに1本ずつ、または1本も取得していない場合は、「延長」「引き分け」「判定」のいずれかになります。（大会規定で異なる）

小奴可剣友会

銃剣道教室「小奴可剣友会」は、昭和57年に発足。発足から現在まで、43年間にわたり、指導者の井澤継男（つぐお）さんが、熱意と情熱を持って子どもたちを指導。

監督は、広島県銃剣道連盟所属の村田さん。

文武両道をモットーに、12人のメンバーが週2回練習を行い、各種大会に出場しています。

～全国大会を振り返って～

指導者　井澤さん

全員が一丸となり達成

教え子のみんなが、厳しい戦いを制し、見事優勝を決めてくれました。準決勝、決勝の大将戦で勝利が決まった時には、立ち上がって拍手し、43年間の思いに男泣きしました。監督・選手が一丸となり、達成できたと思います。これからは後継者を作りつつ、小奴可剣友会が続くよう自分も倒れるまで、子どもたちに接していきたいと思います。

みんなの応援が支えに

あっという間に終わったという感覚です。一試合一試合を集中して戦い抜きました。これも練習の時から、注意されたら次の練習までには改善するよう意識して臨んでいた結果だと思います。先生も本当に熱心に教えてくれるので環境もとても良かったです。小奴可剣友会の仲間や先生、家族、応援してくれたみんなには、感謝の気持ちでいっぱいです。

大将　細川(楓)くん

中堅　冨田くん

思いをつなげる

大会を振り返って、一番印象に残っているのは、準決勝の佐賀県との試合です。地元開催ということもあり、会場は佐賀県の応援の人ばかりで、完全アウェーでの試合でした。

先鋒が惜しくも負けてしまい、自分が負けると試合終了という状況でしたが、勝つことができ、大将までつなげることができたことが、うれしかったです。

全力で試合に臨む

プレッシャーはありましたが、試合が始まると対戦相手に集中して臨めました。決勝で戦った高知県とは、過去の大会で負けていたので「勝てるかな」と不安もありましたが、とにかく勝つ、全力で勝つという気持ちで試合に臨み、リベンジを果たすことができました。次の全国大会では、個人戦でも優勝を目指したいです。

先鋒　細川(柊)くん